

広陵町DX推進計画〈概要版〉令和6年3月

目的

国の目指すデジタル社会のビジョン「デジタルの活用により、一人ひとりのニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」と整合を図るとともに、AIやRPA等の新しい技術を積極的に取り入れ、庁内業務の効率化及び、交通機関や子育てなど住民に寄り添った質の高いサービスの提供並びに地域の活性化など、デジタルを活用した地方創生の実現に向けた取組を更に加速させるため、DX推進の指針となる「広陵町DX推進計画」を策定します。

基本理念・将来像

行政をはじめ、議会、住民、企業、大学等と協力し合いながら、新たな価値を創造し、誰もがデジタル技術の恩恵を受け、便利で豊かに暮らせるまちを実現するために、基本理念を「ALL CONNECT 広陵～ともに協力し、ともに創るみらいのまち～」とします。

情報セキュリティの確保は基本

近年サイバー攻撃の発生頻度の増加と高度化が続く状況下において、サイバーセキュリティ対策の更なる強化が不可欠となってきています。利用者が安全・安心にサービスを使うため、「広陵町セキュリティポリシー」に基づいた情報セキュリティ対策を環境の変化に応じた強化を図るとともに、DXの推進とあわせて、より一層強化していきます。

ALL CONNECT 広陵 ～ともに協力し、ともに創るみらいのまち～



DX推進の基本方針

誰もが心にゆとりのある日常生活をおくる

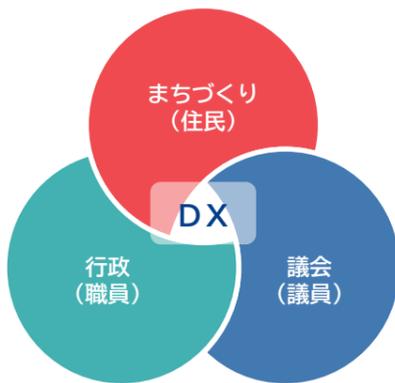
住民生活の利便性向上を図り、地域課題を解決する「まちづくりDX」を推進します。

住民と議会が、もっと身近な距離になる

住民と議会の距離をもっと近くに感じてもらおう「議会DX」を推進します。

住民と職員が、もっと快適になる行政の仕組みを創る

デジタル技術とデータ活用により、行政業務の効率化・省力化を行い、新しいサービスを創造する「行政DX」を推進します。



対象期間・位置づけ

対象期間：R6～15年度の10年間

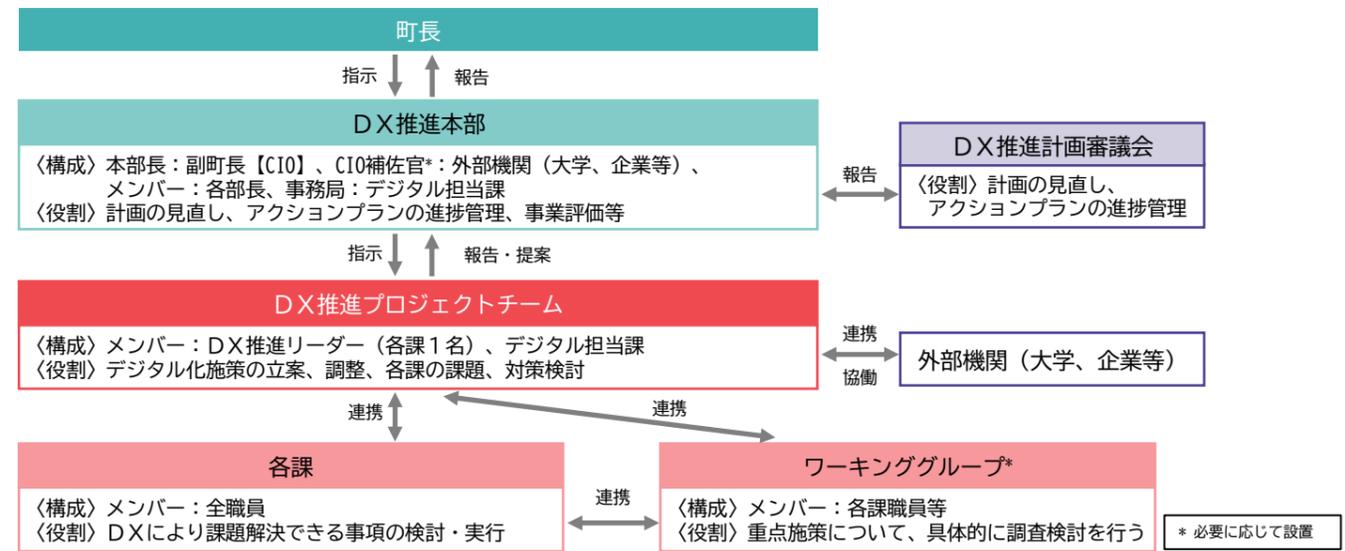
位置づけ：第5次総合計画に掲げられている基本目標7「健全で効果的・効率的な行政運営の推進」を達成するための計画

Webサイト



推進体制

職員全体におけるICTスキルの底上げを図り、部局を横断し、全庁一体となり、DXを推進し、住民目線のサービスを実現するために、次のとおりDX推進体制を構築します。また職員自らがデジタル社会に向けた意識改革、組織のあり方を考え、トップダウンのみならず、ボトムアップによる意見の吸い上げにより、行政サービス向上に向けた検討を行い、計画の推進を図ります。



計画の進捗管理・アクションプランの見直し

PDCAサイクルを基にアクションプランの進捗管理を行い、効果的かつ効率的なデジタル化施策の実現をめざします。また、その時点で、最も適切で実効性のある計画となるよう、必要に応じてアクションプランの内容やスケジュールを変更することとします。



アクションプラン（施策一覧）

	短期					中期	長期
	R6年度	R7年度	R8年度	R9～11年度	R12年度以降		
○は「重点プロジェクト」							
I. 健康なまち							
○ ①人生健康アプリ		アプリ検討			導入		
②病院コンシェルジュ（オンライン医療相談）			病院と連携し、相談アプリ等の仕組みを検討				
II. デジタル教育のまち							
○ ③デジタル教育体験	サービス検討			実施			
④教育コンシェルジュ（オンライン教育相談）	学校・保護者間連絡ツール導入		子育て等のオンライン相談検討				
⑤バーチャル図書館	電子図書館推進			VR等のバーチャル図書館の検討			
III. とともに守るまち							
○ ⑥共助・共創の見守りネットワーク	小学生を対象	認知機能が低下した高齢者等対象者の拡大					
○ ⑦デジタルによる災害見守りシミュレーション			災害対応デジタルマップ検討・導入	災害シミュレーション検討・導入			
⑧統合型GIS	導入済みの統合型GISのデータ拡充・オープンデータ化						
IV. スムーズに移動できるまち							
○ ⑨のり一と広陵元気号の利便性向上	交通系ICカードの支払い、マイナンバーカードとの連携検討・導入						
○ ⑩小型モビリティの導入	シェアサイクリング等小型モビリティの検討・導入						
⑪次世代交通システムの導入		グリーンスローモビリティ等の検討		次世代交通システムの検討			
V. とともに助け合い・働くまち							
⑫スマート農業				先端技術を活用したスマート農業の推進			
○ ⑬人材マッチング				人材マッチングアプリの検討・構築			

	短期					中期	長期
	R6年度	R7年度	R8年度	R9～11年度	R12年度以降		
まちづくり							
VI. 地域ネットワークで広がるまち							
○ ⑭仮称「地域つながりアプリ」				アプリ検討・構築			
⑮デジタル地域通貨・ポイントの導入			奈良県スーパーアプリとの連携・検討				
⑯メタバースによる観光客誘致				メタバースを活用した観光アピール			
議会							
VII. 住民に開かれた議会							
○ ⑰議会のオープン化		議会のライブ中継・配信の検討・実施		動画を活用できる仕組みの検討			
⑱住民参加型意見交換プラットフォーム				意見交換可能な仕組みを検討・構築			
行政							
VIII. 人に優しい行政のまち							
○ ⑲定型業務の効率化			AI-OCRやRPA等の検討・導入				
⑳住民目線のホームページ再構築	再構築	アクセシビリティ改善					
㉑行政データのオープンデータ化促進		町の行政データをオープンデータとしてホームページに公開し、利活用促進					
○ ㉒窓口DX推進(書かない、待たない、行かない窓口)		書かない窓口、待たない窓口の検討・導入		行かない窓口の推進			
㉓選挙投票のオンライン化				オンライン投票の検討			
○ ㉔デジタルデバйд対策	スマホ教室の実施			誰もがデジタルに触れる機会の提供			
○ ㉕庁内業務改革(自動文字起こしツール、自動生成AI活用、テレワーク推進)	自動文字起こしツールの導入			自動生成AI活用範囲拡大検討			
㉖電子契約推進、会計事務電子化	県の電子契約導入	会計事務の電子化検討		基幹系を含むテレワーク検討・実施			

ALL CONNECT 広陵 2033

～ともに協力し、ともに創るみらいのまち～

Cloud

データの利活用

地域ネットワークで広がるまち

ともに助け合い・働くまち

スムーズに移動できるまち

健幸なまち

地域の暮らしに特化した情報発信

ニーズとシーズの人材マッチング

生まれてから最期まで健康情報を蓄積、活用

健康アプリでいきいきと生活

人に優しい行政のまち 住民に開かれた議会

ともに守るまち

デジタル教育のまち

災害シミュレーションで事前に避難経路をチェック

AIができることは任せて効率ワーク

町政情報の効果的な発信

デジタルデバインドのない社会

デジタルに強くなる教育

BLEタグで子どもや高齢者を見守り

スマホで申請書かない、待たない、行かない窓口

職員の働き方改革でワークとライフを両立

